

羅臼町ネイチャーポジティブ宣言

～世界自然遺産・国立公園の価値を未来へ継ぐまちとして～



羅臼町は、流氷の海から知床連山へと続く海・川・森のつながりの中で、自然とともに歩んできました。

流氷がもたらす豊かな海、サケ・マスが遡上する川、そしてそれらを育む森は、町民の暮らしや産業、文化、誇りの源として世代を超えて受け継がれています。

本町は、知床国立公園を有し、世界自然遺産「知床」の一部を構成する自治体として、人と自然の共存と、自然環境の保全・持続的利用に責任を持って向き合ってきました。

また、羅臼町民憲章及び知床憲章の理念のもと、自然の恵みに感謝し、守り、活かし、次の世代へ引き継ぐことを大切にしています。

これまで本町は、知床羅臼SDGsステートメントの策定、ESDの実践、ゼロカーボンシティ宣言など、未来世代と地球環境を見据えた取組を進めてきました。これらの積み重ねは、自然と共に生きるまちを目指す羅臼町の揺るぎない基盤となっています。

近年、世界では、2030年に向けた国際目標として、生物多様性の損失を止め、回復へと反転させる「ネイチャーポジティブ」の考え方が示されています。日本においても、生物多様性国家戦略のもと、地域からの取組が重要とされています。

しかし、気候変動の進行や生物多様性の損失などにより、流氷の減少や海洋環境の変化に加え、夏季の気象の変動や水揚げ魚種の変化など、自然を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。

私たちは、流氷がもたらす豊かな海と、海・川・森のつながりに支えられた豊かな自然環境を未来へ確かなにつなぐため、従来の「守る」取組にとどまらず、自然を回復させ、より豊かにしていく取組へと歩みを進める必要があります。

羅臼町は、羅臼町民憲章及び知床憲章の理念を踏まえ、ネイチャーポジティブの考え方を町の未来につなぐ指針として位置づけ、ここに宣言します。

【基本理念】

1. 世界自然遺産の価値と生物多様性の継承

知床の海・川・森が育む生態系の健全性を守り、回復させ、その価値を次の世代へ確実に引き継ぎます。

2. 自然と産業・暮らしの好循環による地方創生

漁業や観光をはじめとする産業の持続可能性を高め、働く場と暮らしを支えることで、自然の恵みを地域の力とした地方創生を進めます。また、地域の基盤である自然への再投資を進めます。

3. 持続可能なまちづくり

気候変動は知床世界自然遺産への大きな脅威との認識の基、ゼロカーボンシティの実現を目指します。また、資源を大切にするとともに、資源循環の取組を進めます。

4. 学びと共創による未来世代の育成と世界に向けた発信

SDGsの理念を共有し、ESDを通じた学びと実践を様々な関係者と共に広げることにより、未来世代を育成します。また、訪れる人々への情報発信等により、羅臼町の取組を世界へ発信します。

令和8年3月4日

羅臼町長 湊屋 稔